

令和7年度第1回 亀山市地方創生会議 議事概要

開催日時	令和7年10月20日(月) 13:00~15:00
開催場所	亀山市役所本庁舎 3階 大会議室
議事項目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 委嘱状交付 3. 自己紹介 4. 会長及び副会長の選出 5. 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 第2期亀山市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価・検証について 亀山市の人口動態について(資料1~3) (2) 企業版ふるさと納税の効果検証について(資料4) (3) 第2期亀山市シティプロモーション戦略について(資料5) (4) 第3期亀山市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について(資料6) (5) 人口ビジョンの策定について(資料7) 6. その他
議 事	<p>1. 市長あいさつ</p> <p>【市長よりあいさつ】</p> <p>ずいぶん秋が深まってきたなか、本日は令和7年度第1回亀山市地方創生会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。また、平素から亀山市政にご尽力いただき、心より厚く御礼申し上げます。</p> <p>さて、我が国において少子高齢化、人口減少など社会全体のあり方に大きな変化があり、それに伴う課題に直面しているなか、地方創生の取り組みが重要になっています。</p> <p>本市においても、人口減少の局面には入っているものの、近年では30~39歳の世代では転入超過となっており、人口の社会増の傾向が見られることは明るい兆しを感じる。</p> <p>本日は、第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の令和6年度における取り組みの評価・検証、企業版ふるさと納税の効果検証、第2期シティプロモーション戦略の評価に加え、来年度から始まる第3期亀山市総合戦略、人口ビジョンの策定について、皆様からご意見をいただく重要な機会と考えています。</p> <p>これらの事項は、本市が住みたい、働きたい、暮らしたい都市として選ばれ、持続可能な都市として発展していくための礎でありますので、行政だけでなく生活実感に即したご意見・ご提言が何より大事であると思います。</p> <p>本日は、亀山市の輝ける未来に向けて忌憚のないご意見をお寄せいただきたい。よろしく願いいたします。</p> <p>2. 委嘱状交付</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市長より委員一人ずつに委嘱状を交付。 <p>3. 自己紹介</p> <p>【各委員：自己紹介】</p> <p>4. 会長・副会長選任</p> <p>事務局一任の声有り</p>

【事務局より事務局案説明】

会長：埼玉大学基盤教育研究センター 教授 石阪 督規委員

副会長：亀山市副市長 山本 伸治委員

(各委員)

- ・異議なし。

【就任あいさつ】

(会長)

- ・会長に就任しました石阪と申します。この会議は回数が少なく、1回のボリュームが多いので大変ですが、よろしくお願ひします。
- ・人口減少は全国的なトレンドであり、避けられない状況となっている。しかし、地方においては、魅力であったり、寛容であったり、多様性があったり、という自治体では人口減少が抑えられている。亀山市も子育てがしやすいまちとしてやってきたが、これからはどうなるか分からない。
- ・地方移住の相談を受けると三重県を推薦するようにしている。現在は、居住地を自由に決める時代になっているので、各自治体が魅力的なまちづくりを進め、いかにPRするか、受け入れるかが重要になっている。
- ・本日も、ご議論のほどよろしくお願ひします。

5. 次期亀山市総合計画の策定について

(1) 第2期亀山市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価・検証について
亀山市の人口動態について（資料1～3）

【事務局より資料説明】

(会長)

- ・人口減少については、近年、転入超過による社会増の状態が続いている状況である。
- ・合計特殊出生率が1.55から1.26が低下し、三重県の平均を下回っている。こうした状況をどう見るか、ひとつ問題となってくる。
- ・「亀山市に住み続けたい」などの市民意識調査の評価が下がっているような印象を持ったので、先が不安な状況もある。

(委員)

- ・「将来の夢や目標をもっている子どもたちの割合」について、小学生は良いが中学生が低下している。高校進学など人生の段階が進むと、不安に感じているように思う。

(会長)

- ・中学生まではきめの細かいサービスを亀山市ができていたが、高校・大学に行くタイミングで、行政の支援が届かなくなっていく。中学校卒業以降の若者への支援が課題となってくる。
- ・待機児童は減っているにもかかわらず出生数が減少していることについて、現場では感じる事、思うところはありますか。

(委員)

- ・他の都道府県に比べると出生率は高いと思うし、子どもを育てている世帯では子どもが2～3人という世帯もある。少子化の理由を考えると、子どもを持たないという選択をする人が増えていること、産む年齢が高くなっていることが理由だと感じている。
- ・亀山市は土地が安く、家を比較的入手しやすいため、比較的若い年代で住宅を取得でき

る一方で、親が子育てより働くことに時間をとられてしまい、子育てが難しい状況にある。教育面を充実させる必要がある。

(会長)

- ・亀山市では、住宅や産業団地の土地として転用できる余地はあるのか。

(事務局)

- ・民間事業者による小規模な住宅地の開発・供給が郊外や市街地周辺部で見られる。現在も年間200戸前後の住宅建築が続いている。
- ・関テクノヒルズが完売したため、産業団地は不足している。小規模な産業用地の開発を検討することも課題である。

(会長)

- ・現実的には、大きな土地を用意することは難しいため、小規模の開発を検討することも重要である。亀山市は、教育や保育は充実している。

(委員)

- ・地域の懇談会に出ると、高齢者が多いこともあり、高齢者の地域活動の負担軽減の話をしてきた。そうすると、若い世代に負担がかかるような状況になっているので、地域に戻りたいと思えなくなる。

(会長)

- ・負担の押し付け合いではなく、助け合いの仕組みを作っていく必要があるのではないかと。
- ・亀山市では自治会等への加入はしっかりしているという印象があるが、今はどのような状況なのか。

(委員)

- ・最近では、自治会に入らない若い世帯もみられる。

(事務局)

- ・自治会加入率は低下しており、課題であると考えている。

(委員)

- ・自治会の組などで役員が回ってくる前に抜けてしまう人もみられる。

(会長)

- ・地域の互助団体の機能を高めていくことが重要である。
- ・評価検証報告書については、皆さんの意見を踏まえて「地方創生会議の意見」を作成して、後ほど皆さんにも共有する。

(2) 企業版ふるさと納税の効果検証について(資料4)

【事務局より資料説明】

(会長)

- ・企業へのアピールをどのようにして取り組むのかが重要である。
- ・企業としては、寄附が何に使われたか、それを伝えることに関心があり、企業側へのPRが重要になってくる。

(3) 第2期亀山市シティプロモーション戦略について(資料5)

【事務局より資料説明】

(会長)

- 亀山市では、市内と外で分けてプロモーションを展開している。
- LINEでの情報発信は良い取り組みである。
- 広報サポーターとはどのような役割か。

(事務局)

- 令和6年度までは、広報紙の記者や市民アナウンサーの役割を担っていただき、令和7年度からは主に、番組を通して亀山市の魅力を発信していただいている。

(委員)

- 亀山市の行政情報番組は市民や職員がレポーター等として出演をしていただき、様々な伝え方を行っている。
- 市外へのシティプロモーションという点では、亀山ハイウェイオアシスのサイネージの空きスペースを活用してPRを行うことが有効である。

(会長)

- 民間の事業者と連携して、市が予算を出さずにPRに取り組むことも考えられる。

(事務局)

- 亀山商工会議所前のサイネージを使ったPRを行っている。
- 三重県東京事務所横のショーウィンドウで、サイネージを活用しPRをしている。

(会長)

- 広報サポーターが自身のツールを使って、もっと自由に発信することができると情報の伝わり方に広がりが増える。
- 情報の管理が難しいが、それぞれの市民の感度とフォロワーを活用できる。
- 観光入込客数については、夏の暑さなどが原因で減っているのではないか。この辺りの対策は考えていく必要がある。
- 市公式LINEの登録数はどのくらいか。

(事務局)

- 4400人程になっており、求める情報分野により発信状況は異なる。
- 市制施行20周年に合わせ、50日前から機運醸成のために動画を配信した。

(委員)

- 費用対効果の面で、市内・市外のターゲットをしっかりと分けないといけない。

(会長)

- 対象別にコンテンツを作って発信することが重要である。

(4) 第3期亀山市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について(資料6)

(5) 人口ビジョンの策定について(資料7)

【事務局より資料説明】

(会長)

- 亀山市の将来人口の見通しは2030年に48,700人となるが、世帯数は増えるということで、独居世帯や夫婦のみの世帯が増える。決してポジティブではない。当初の見込みより下振れしているなかで、何とかしなければいけない。
- 出生率の上昇と社会増のためには、第3期総合戦略の取り組みが重要になってくる。
- 第2期総合戦略との比較として、枠組みや中身が変わってくると思うが、具体的にどのように取り組むのか。

(事務局)

- ・第3期総合戦略に新たに盛り込む要素を参考資料に太字・下線で示している。

(会長)

- ・シティプロモーションの再構築とあるが、今までの延長ではなく、踏み込んだ取り組みをすることを想定しているのか。

(事務局)

- ・市外の亀山市に対する認知度の向上やイメージの浸透、ブランディングが不十分なので、しっかりとやっていきたい。

(委員)

- ・中堅・中小企業への保証料の補給制度は重要であるため、引き続き検討していただきたい。
- ・亀山市の強みとしてあまり取り上げられていないが、生物多様性についてアピールすることで、他の自治体との差別化が図られる。それに賛同することは上場企業にとっても強みになるので、企業誘致と連動させて積極的に取り組んでいただきたい。

(委員)

- ・高齢化が進んでいるなか、公共交通の再構築が不可欠であり、コミュニティバスの拡充が重要である。

(事務局)

- ・既存の手段にこだわらず多様な公共交通のり・デザインをしていきたいと考えている。

(委員)

- ・保幼小中の子育て・教育支援は市として一生懸命やってくれている。駅前の図書館も良かった。
- ・小学校は地域に支えられて良い環境が整っており、中学校も部活動や職業体験でいろいろな経験ができる。しかし、高校生以降になると、楽しめる場所が少なく出ていく子どもが増えてしまう。
- ・帰ってくる若者（特に女性）が確保できるように、女性が活躍できる業種が増えていくことが期待される。

(会長)

- ・若い世代に戻ってきてもらうためには、製造業だけでなく、戦略的に多様な業種を企業誘致することが重要だということだと思う。
- ・都会ではお店等になる若者の居場所が、亀山市では図書館になっているということは良いことだと思う。
- ・第3期総合戦略の策定に向けて、枠組みを再編したということで、概ねご理解いただいた。今後の本編作成を待つこととする。
- ・以上で、本日の協議事項を終了とする。

6. その他

【事務局より説明】

以上